

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。
秘書広報課 ☎0040 ✉koho@city.makinohara.lg.jp



世界大会優勝に喜ぶ川合さん(後列・左から4人目)[本人提供]

剣道で世界の頂点に立つ

■世界剣道選手権大会優勝選手が市長を表敬訪問

「第19回世界剣道選手権大会」(7月4日～7日、イタリア)にて女子団体戦で優勝した川合芳奈さん(筑波大学4年、静波出身)が8月8日、市役所榛原庁舎を訪れました。

世界大会で川合さんは予選2戦と決勝1戦に出場し、どれも二本勝ち。去年国内大会で2回の優勝を経て、見事16カ国の頂点に立ちました。

川合さんは「学生最後となる全日本女子学生剣道大会での2連覇、そして3年後に日本で開催される世界大会で優勝を目指したい」と話しました。

交通死亡事故ゼロ連続800日を達成

■市が「交通安全優良市表彰」を受賞

市が「交通死亡事故ゼロ連続800日」を達成し、8月2日、県交通安全対策協議会から、「交通安全優良市」として表彰を受けました。

市役所榛原庁舎で行われた表彰状伝達式では、県くらし交通安全課の入戸野明課長から杉本市長に表彰状が手渡されました。杉本市長は「交通事故はどこでも誰にでも起こりうるということを今一度確認し、市全体で交通安全の意識を高めていきたい」と話しました。これまでの最長記録は、令和2年に達成した946日です。



県くらし交通安全課の入戸野課長から表彰状を受ける杉本市長

子どもたちが作るまちは夢いっぱい

■KIDS TOWN ぼくらのまちはら2024

「ぼくらのまちはら2024」が8月25日にい～らで開催され、「ぼくまち市民」101人が参加しました。

これは子どもたちが主体となってまちを作るプロジェクトで、こどもスタッフ37人が約2カ月かけ準備をしてきました。会場には、アクセサリーのお店や飲食店、学校など子どもたちが企画した夢いっぱいのブースが並びました。大会実行委員は「子どもの一生の思い出に残るような体験を、今後も継続して開催していきたい」と話しました。



お店でアクセサリーを購入する「ぼくまち市民」



キックオフイベントで藍染め体験教室を楽しむ参加者

花づくり活動がまちを彩る

■第31回全国花のまちづくり牧之原大会キックオフイベント

来年市内で開催される「第31回全国花のまちづくり牧之原大会」に向けたキックオフイベントが8月3日、い～らにて開催されました。

イベントでは、ポスターコンクールの表彰式をはじめ、体験教室や花の販売、子供向け縁日も開催され、会場は大盛況となりました。

大会が開催される令和7年度は、市花の会が創立20周年を迎えます。大会の実行委員は、「来年20周年に向け、多くの人に楽しんでもらえるイベントにしたい」と意気込みを語りました。



協定書を手にする國宗東海支社長◎と杉本市長

いつ発生するか分からない災害に備える

■災害時における応急支援物資の供給協力に関する協定締結

市は7月31日、「災害時における応急支援物資の供給協力に関する協定」をプラス株式会社ジョインテックスカンパニーと締結しました。

これは災害時に市民生活の安定を図るため、双方が互いに物資供給を協力することを定めたもの。

同社の國宗伸敬東海支社長は「昨今は地震だけでなく局地的な水害も起こっている。発災時にはできる限り対応していきたい」とあいさつ。杉本市長は「災害はいつ発生するか分からない。今回の協定締結を心強く思う」と答えました。

ラグビーを通じて子どもたちに良い影響を

■静岡ブルーレヴズとのパートナーシップ協定締結

本市とジャパンラグビーリーグワン1部に所属する静岡ブルーレヴズを運営する静岡ブルーレヴズ株式会社は8月2日、パートナーシップ協定を締結しました。

スポーツを活用したまちづくりやにぎわい創出、青少年の健全育成など幅広い分野で連携するもの。山谷拓志代表取締役社長は「ラグビーを通じて子どもたちに良い影響を与えたい」と話し、杉本市長は「プロのラグビーの観戦や選手交流ができるようイベント開催をお願いしたい」と話しました。



協定書を手にする山谷代表取締役社長◎と杉本市長

核のない平和な世界に向け語り継ぐ

■第14回市平和展

第14回牧之原市平和展が7月27日から8月17日にかけて行われました。

世界の恒久平和と市民が安全かつ文化的な生活を営める社会の実現を願い、毎年開催されているもの。期間中、市役所両庁舎でのパネル展示、17日はい～らで、第五福竜丸の映画上映、県代表として長崎市に派遣された榛原高校生の桑田陽菜さんから高校生3人による活動報告や手話を用いた歌唱、同船元乗組員大石又七さんの義妹である河村恵子さん(片浜区)の講演などが行われました。



講演した河村さん(左から2番目)と桑田さん(◎)ら



ALTと一緒にフォトブック作成に取り組む児童ら

海外の視点から地域の魅力を発見

■English Camp(イングリッシュキャンプ)2024

市内の小学5、6年生15人は7月30、31日の2日間、さざんかで開催された「イングリッシュキャンプ」に参加しました。

児童らは、2日間英語でのコミュニケーションを楽しみながら、市の魅力を再認識することを狙いとしたプログラムを実施しました。さまざまな国のALT(外国語指導助手)とゲームなどで交流を図り、市内の観光スポットなどを撮影。撮影した写真を用いて「フォトブック」を作成し、海外視点から見た地域の魅力を発見しました。